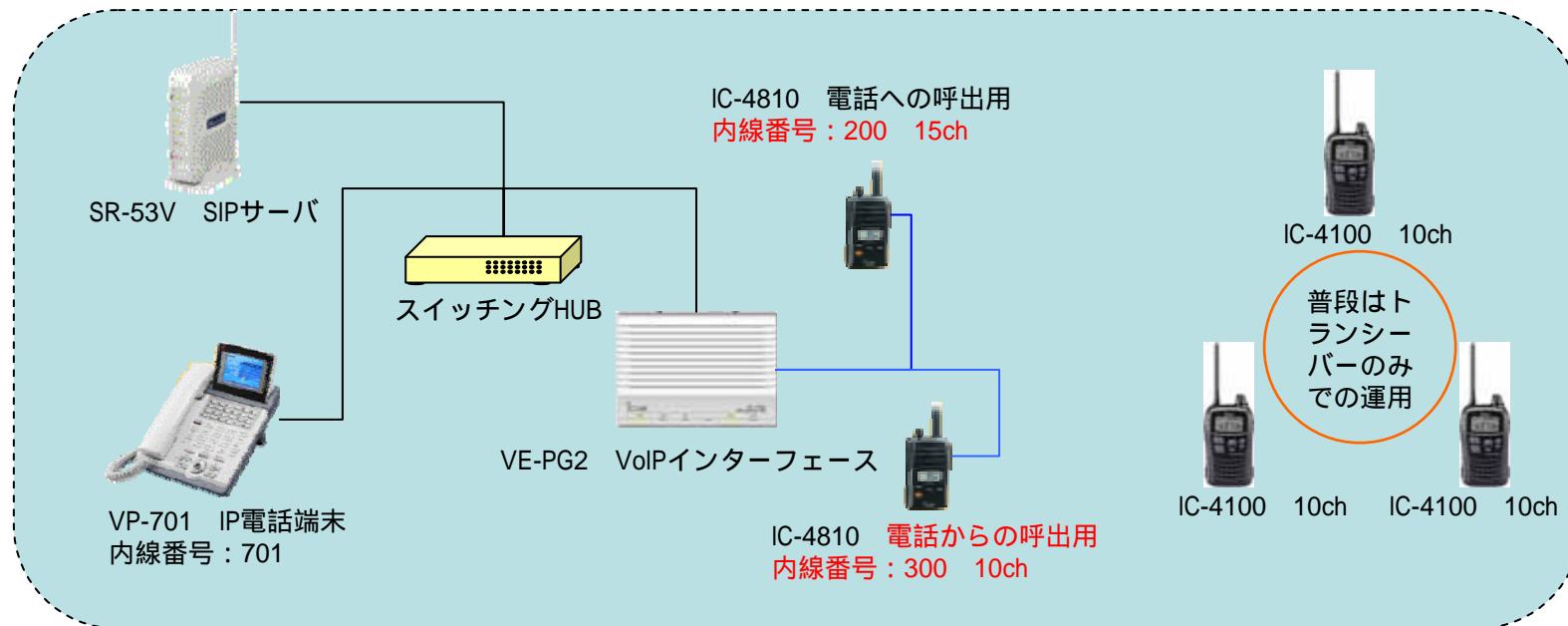
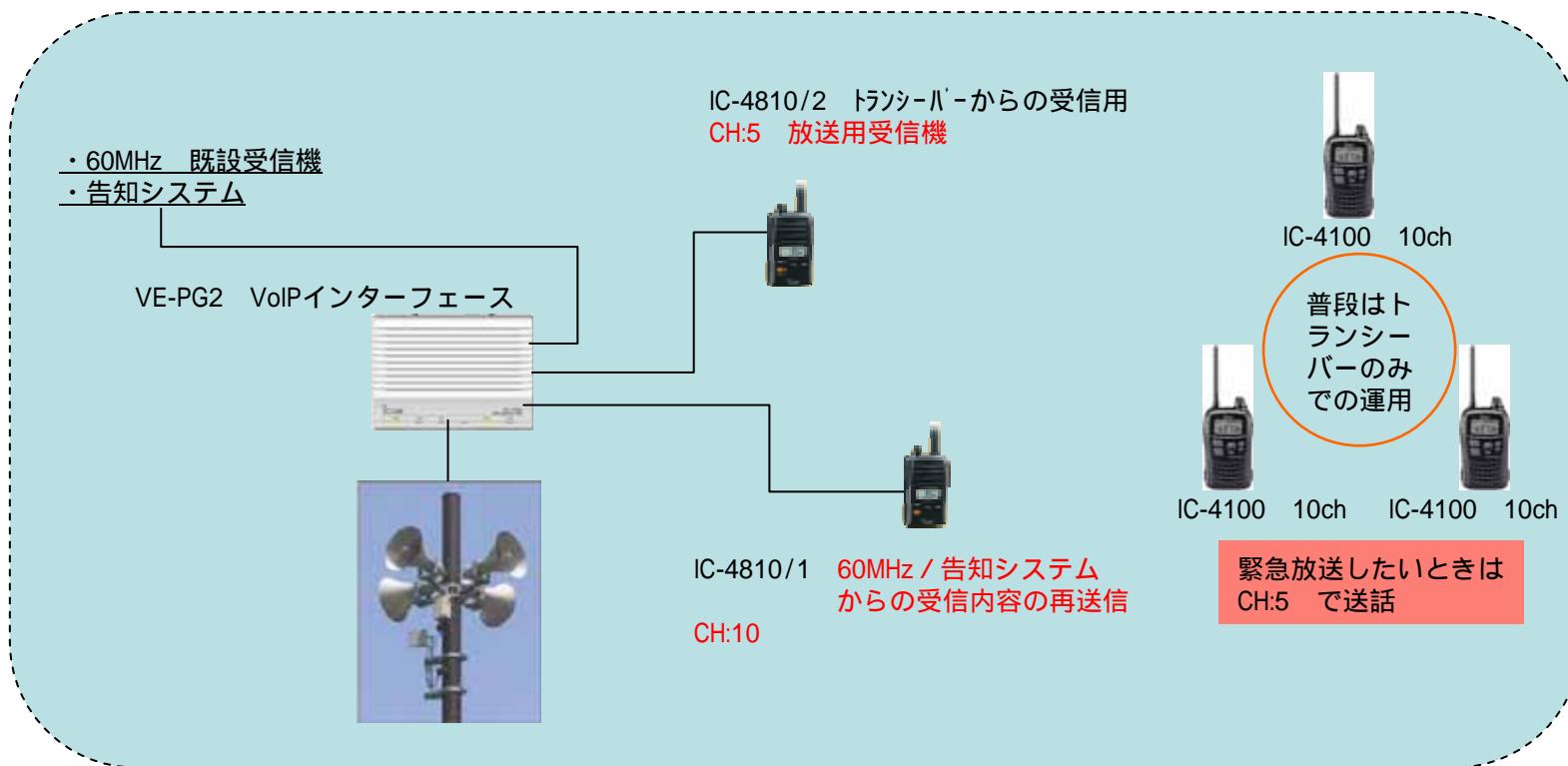


活用例 - 1



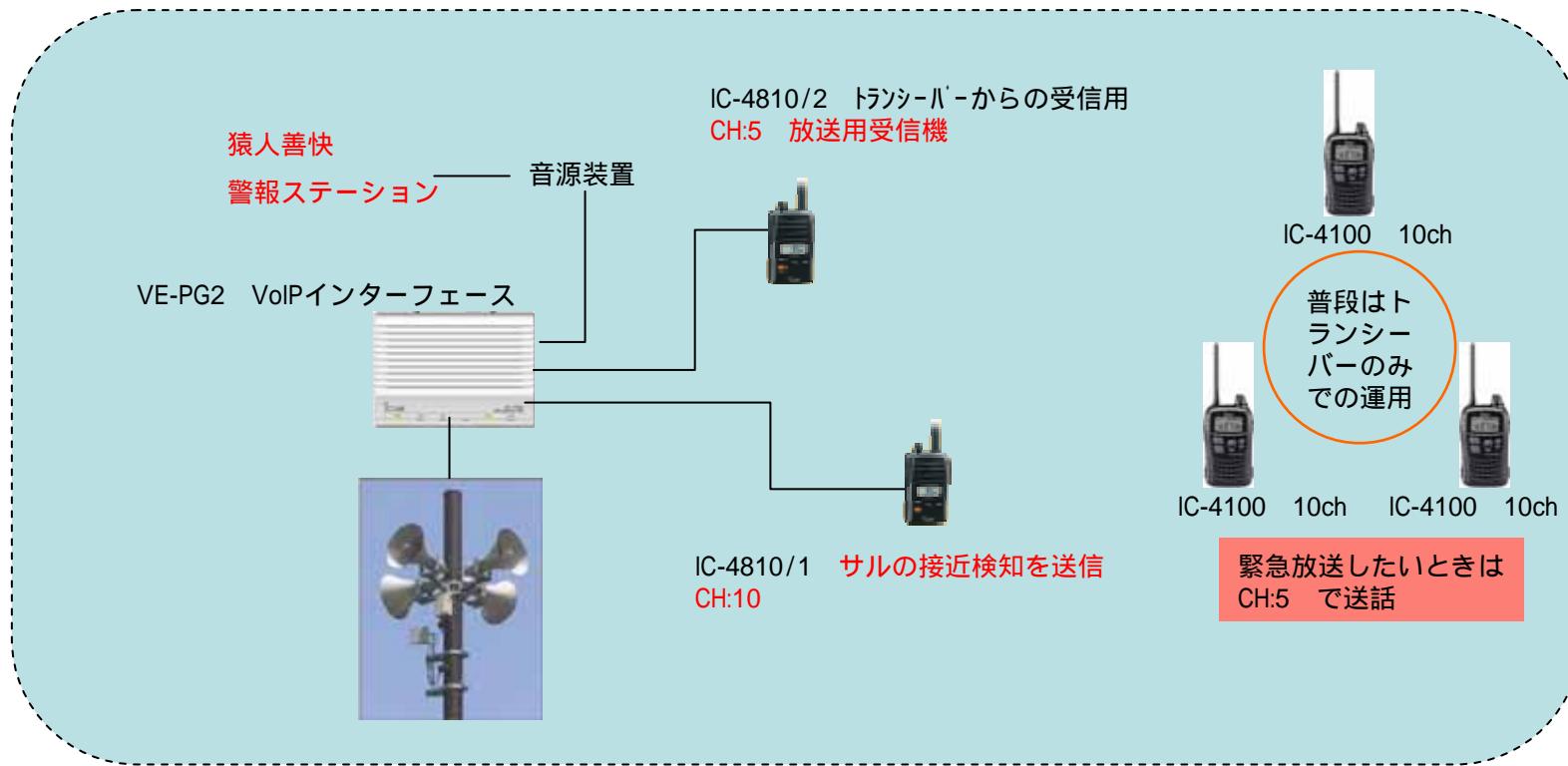
- ・普段トランシーバーはトランシーバー同士のみで通話を行い、業務に使用します。
- ・IC-4810を送受信用に設定すると、トランシーバー同士の通話も全て電話機を呼んでしまいます。
- ・IC-4810を2台用意して、1台を電話機からの呼出専用とし、トランシーバーからの呼び出しを無効にすると電話機がトランシーバーを呼びたい時だけ呼び出すことができるようになります。
- ・トランシーバーから電話機を呼び出したいときには、**チャンネルを15に変更**することで、電話機を呼び出すことが可能になります。
- ・電話機側からは内線300を呼び出すことでトランシーバーを呼ぶことができます。
トランシーバー側から呼ばれるときには内線：200からの着信になります。

活用例 - 2



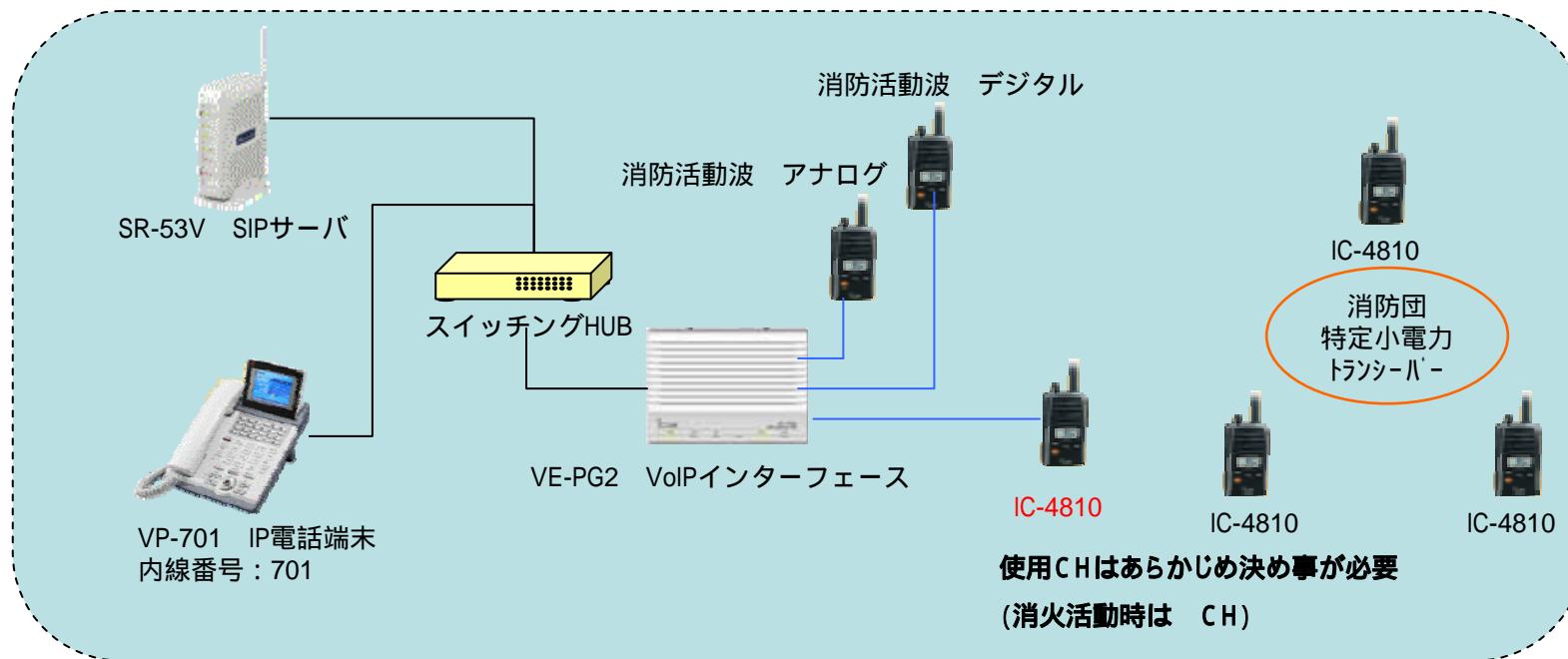
- 普段、トランシーバーはトランシーバー同士のみで通話を行う事が出来ます(CH10)。
- 60MHz / 告知システムより防災放送が入った場合、IC-4810/1よりその内容を再送信します。
- 緊急放送が必要なときは、トランシーバーのCHを5に変更して送話
IC-4810/2がその電波を受信して、放送アンプを起動し放送します。
- この仕組みを多段に構築できます（中継：IC-4810/1の電波を受信して次に再送）。
- 飛距離を要求する場合は、デジタル登録無線機(5W)を利用します。

活用例 - 3



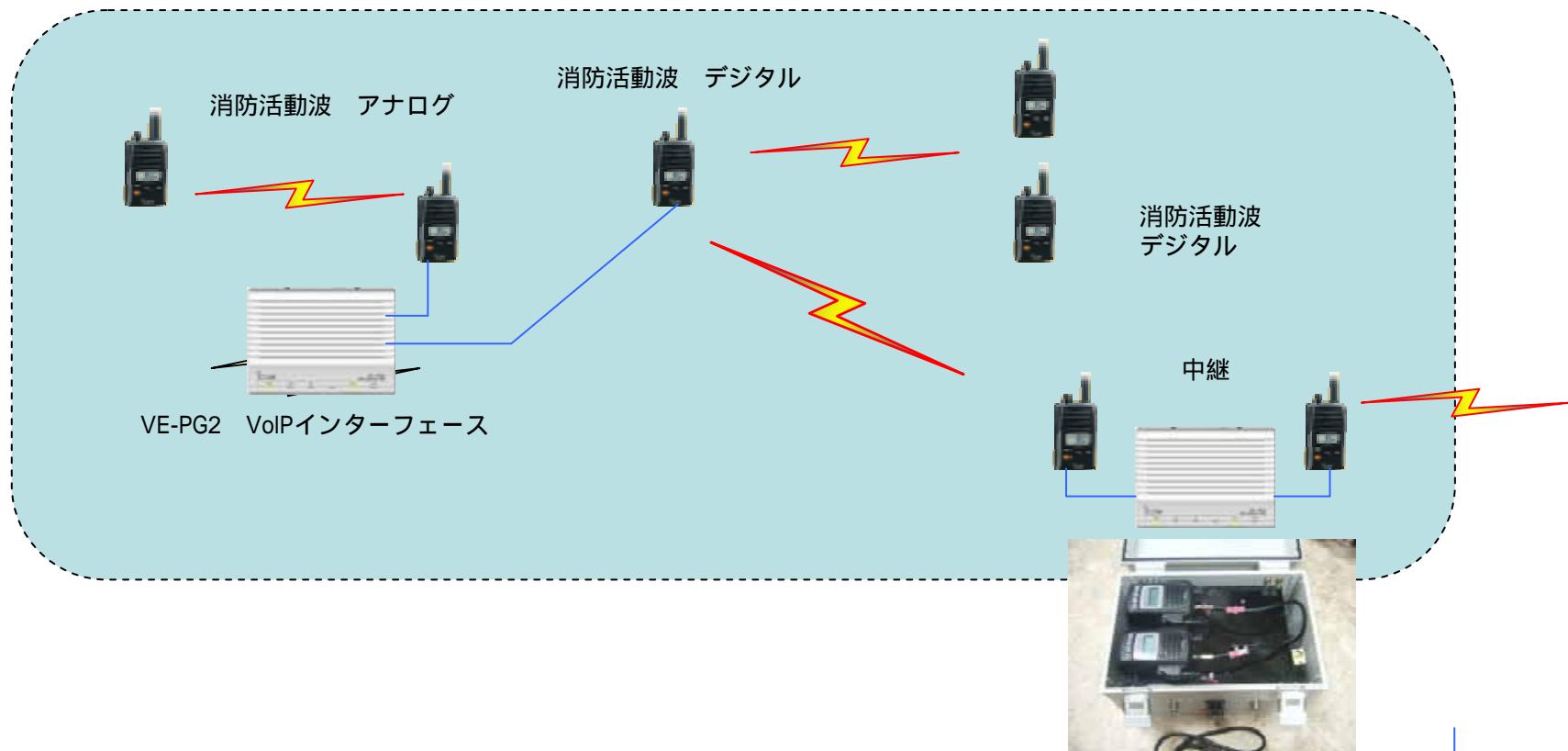
- ・普段、トランシーバーはトランシーバー同士のみで通話を行う事が出来ます(CH10)。
- ・猿人善快がサルを検知した場合、IC-4810/1よりあらかじめ設定された音源を送信します。
- ・緊急放送が必要なときは、トランシーバーのCHを5に変更して送話
IC-4810/2がその電波を受信して、放送アンプを起動し放送します。
- ・この仕組みを多段に構築できます（中継：IC-4810/1の電波を受信して次に再送）。
- ・飛距離を要求する場合は、デジタル登録無線機(5W)を利用します。

活用例 - 4



- ・普段は、消防団トランシーバーとはオフラインで運用します。
- ・IC-4810を送信用に設定すると、消防団トランシーバーに対して指示、あるいは消防の活動状況を流すことが出来ます。
- ・消防活動波について、アナログ方式の無線機と、デジタル方式の無線機の混在が可能になります。

活用例 - 5



- ・無線機の種類を問わず、同じグループとして運用することができます。
消防活動波について、アナログ方式の無線機と、デジタル方式の無線機の混在が可能になります。
- ・山火事など広域連携が必要な場合、簡単な中継(可搬の中継)を行う仕組みが構築できます。